

「迫りくるインプラント治療の影に歯周病治療は……」

講師：長谷川嘉昭先生（日本臨床歯周病学会インプラント指導医）

講師：川崎律子先生（日本口腔インプラント学会認定インプラント専門歯科衛生士）

日時：平成27年9月6日（日）

場所：富士ソフトアキバプラザ「セミナールーム1」



須賀 友哉（東京都）

平成27年9月6日、小雨の降るなか秋葉原の富士ソフトアキバプラザにて第3回特別研修会が行なわれた。

今回はインプラントと歯周病治療を交えての御講演ということで、歯科医師に加え多数の衛生士の



方々にもご参加いただいた。

当日は日本臨床歯周病学会インプラント指導医である長谷川嘉昭先生と日本口腔インプラント学会認定インプラント専門歯科衛生士である川崎律子先生のお二人に御講演いただきました。

長谷川先生は歯周病専門医から見たインプラント治療の問題点に警鐘を鳴らし、御自身が30年前から現在に至るまでに学んだことと、今それについて思うことを御自身の失敗症例を交え、本音で真剣に熱意を持って語っていただきました。

25年経過症例を省みて、当時の学術論はどうだったか、現在の学術論を踏まえ、本来はどうすべきであったか。また歯周病治療を知り尽くしたからこそ言える、衛生士との連携の取れた歯周基本治療の大



切さを説いてくださいました。

また改めて歯科組織・病理学の観点から、我々が見落としやすい本当に安全なインプラント治療についても御指導いただき、また、まだまだ考えないといけないことはたくさんあると気付くことが出来ました。特に非吸収性骨再生材料の歯周病学的な二次感染のリスクに関する内容は大変参考になりました。

私自身、「歯を診て人を診ず」という言葉を常に気を付けて日々診療しております。目先の口腔内だけに囚われず、患者がまずどういう人なのか、家族構成や生活背景はどうか、そしてどういった治療を求めているのか、それらを踏まえてその人に適した治療方針を模索し、提供していくのが良い歯科医師であり、人間であると考えております。

歯科医学的に正しいことはもちろんですが、患者にとって本当に価値ある診療を続けていかなければならないと再認識させていただきました。

続いて川崎律子先生には認知症の患者の病室に最期まで通い続けたことや、具体的な症例を提示して

いただきながら、時には長谷川先生より歯科医師からの観点でお話をしていただき、歯科衛生士の方々は目を輝かせながら聴講されておりました。

逆に我々歯科医師が、普段歯科衛生士の方々がどういった観点で歯周病と向き合っているのか、大変参考になりました。

熱弁冷めやらぬ長谷川先生は残りの時間、質疑応答の時間を最後まで使って歯科について熱く語っておられました。私を含め、聴講された諸先生方にはその熱意は充分伝わったと思います。

今回拝聴させていただき、私自身の多々至らなかったところを改めて認識させていただきました。

今一度、歯科治療の土台となる歯周病治療から頂である安心・安全なインプラント治療を目指し、日々勉強していこうと思う次第であります。

長谷川先生、川崎先生、そしてこの特別研修会を企画して下さった日本インプラント臨床研究会の方々にも心より感謝申し上げます。貴重な御講演、ありがとうございました。

